



大地震の後、なるべく電話を使わないように、といわれるのはなぜ

電話がかかりにくくなる

大地震が起これると、テレビ・ラジオ、新聞などで、地震の被害のようすなどが報道されます。すると、地震が起こった地域に住んでいる、家族・親せき、友だちのことを心配して、たくさんの人がいっせいに電話をかけます。

電話をかけると、声は電気信号になって、電話機から出ている電話線を通ります。電話線は、電柱を通る電話ケーブルに続いています。

電話ケーブルは、電柱から地下へもぐり、直径7センチメートルぐらいの、管を通ります。その後、市内電話局の電話と電話をつなぐ、交換機に送られます。この交換機を通して、電話の相手の近くにある、電話局の交換機に送られます。

電話がたくさんかかってくると、電話局にある交換機が、電話をつなぎきれなくなります。こうなると、いくら電話をかけても、電話がかかりにくくなるのです。

大切な用事以外は電話を使わない

大地震の後では、たくさんの人がいっせいに電話をかけると、地震で負傷した人の、救助をたのむための電話、水や食べ物の救えんをたのんだり、大切な用事の電話も、かからなくなります。それで、大切な用事以外は、なるべく電話を使わないようにします。

(監修・国司 真)

